

お酒をめぐるカルチャーマガジン

月刊たる

1

Monthly
TARU

2021 January

510 yen



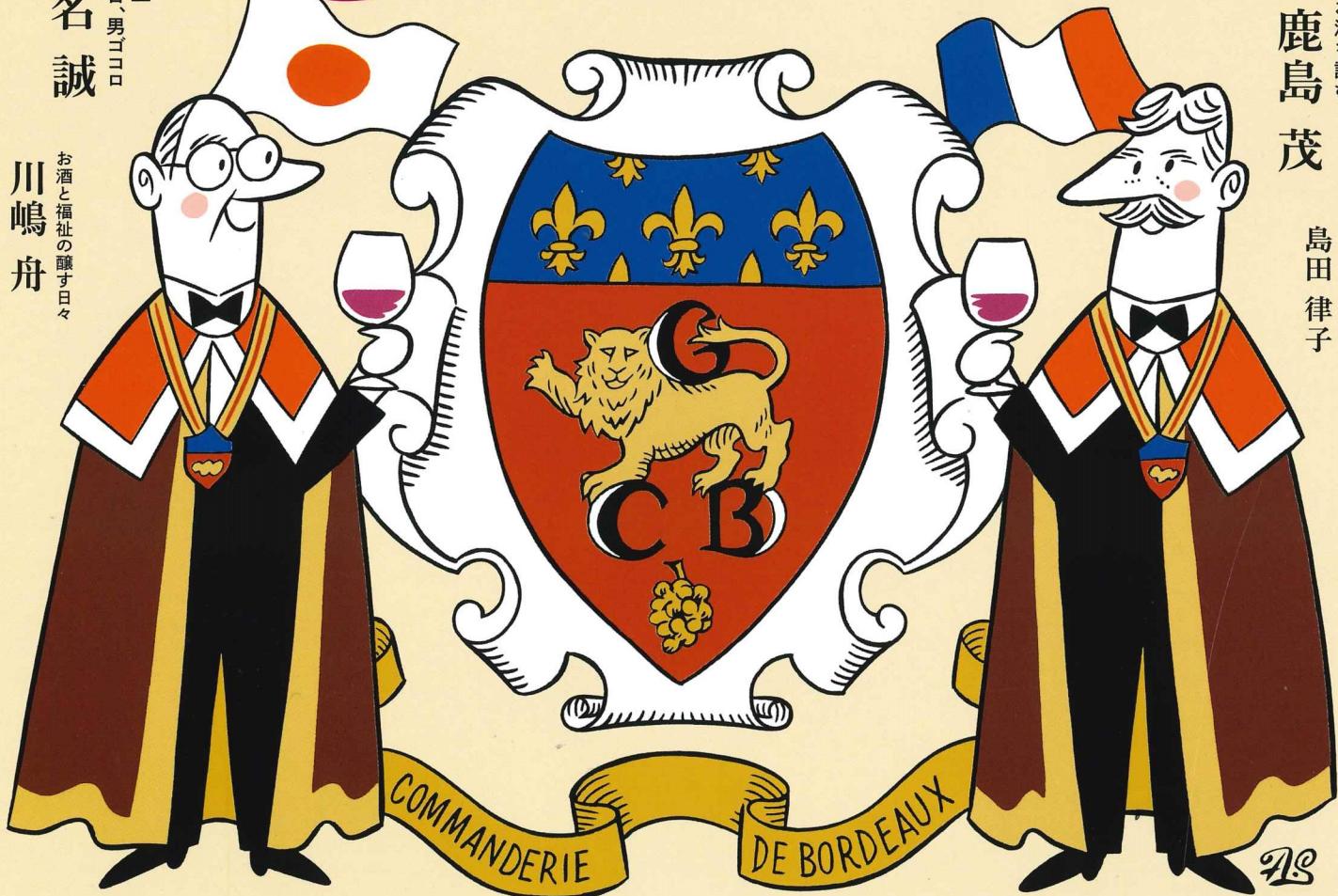
TARU No.459

お酒を読む
鹿島 茂

SAKE スタイル
島田 律子

椎名 誠
〔巻頭言〕
酒ゴコロ、男ゴコロ

川嶋 舟
お酒と福祉の醸す日々



特集

大阪コマンドリー・ド・ボルドー
30年の歩み



何を飲むかではない、誰と飲むかだ

早いもので、大阪でコマンドリーに叙任されて18年になります。一度だけ痛恨の欠席はありましたが、毎年恒例のガラディナーは、年末の楽しみの一つ。2020年の中止は、残念でなりません。

「日本ワインの応援団長」を自認している身として、舶来のワインを飲む機会はめっきり減ってきました。でも、その中で最も愛着があるのが、やはりボルドーなんです。現地を訪れたのは、たったの4回ほど。にもかかわらず親近感をもつている原因は、この大阪支部のおかげだと思っています。

「ワインは何を飲むかではない、誰と飲むかだ」という言葉がありましたが、まさにその通り。ブルゴーニュやシャンパーニュの騎士団にも参加していますが、大阪のボルドー

騎士団は一味も二味も違います。ワインは、その土地を表現する地方色の強い飲み物。東京に住んでいるとは言え、大阪人としては大阪弁でワインを語ることで、より一層美味しく感じられるのかもしれません。ガラディナー以外の時でも、大阪のコマンドリーの皆様とお会いすると、それだけでほっとします。それこそ、この会が素晴らしいコミュニティに育っている証拠じゃないでしょうか。

関西の政治、経済、文化、医療など様々な分野のリーダーの集まりでもありますから、その未来を語る会としても、まだまだ大きな存在感を示せる可能性も秘めています。「お酒の席で政治を語るな」とは言われますが、そんな生臭い話ではなく、酔いに任せて明るい夢を語れる集

団、なんて素晴らしいと思いませんか？ 大阪都などというネーミングに走るのではなく、もっと大阪らしさとか、本質の話が出来る集まりだと感じています。

ボルドーと言えば、実は大変苦い思い出もあります。こんな経緯です。自身で企画した美食とワインの旅の帰途、ボルドー空港からパリを経由する夜便を選択していました。ところが空港の担当者が、日本人の団体に対してよい印象を持っていなかつたのでしょう、ちょっとしたことで、我々夫婦と添乗員を乗せなかつたのです。結局近くのホテルに一泊することになり、お客様達だけが予定の便で帰国。前代未聞の大事件でした。

一人の空港勤務の管理職によって、大好きだったフランス、そしてフランス人に対する悪い感情が産み出されてしまったことは、残念至極です。しかしながら、ボルドーワインに



辰巳 琢郎 たつみ・たくろう

大阪市出身。京都大学文学部卒業。知性・品格・遊び心と三拍子揃った俳優として幅広く活躍中。食通・ワイン通としても知られ、『日本のワインを愛する会』会長、日本ソムリエ協会名誉ソムリエ他、数々の親善大使を務める。自ら企画した『辰巳琢郎の葡萄酒浪漫』(BSテレ東)は15年続く长寿番組。著書に『やっぱり食いしん坊な歳時記』『日本ワイン礼讃』他多数。観光庁アドバイザー。近畿大学文芸学部客員教授。国連WFP協会顧問。「大阪コマンドリー・ド・ボルドー」運営委員。

辰巳 琢郎

30周年、おめでとうございます！